

会計名			市道01-4号線他道路新設改良事業				担当部		建設部		
一般会計							担当課		道路建設課		
款	項	目					担当係		道路整備第2係		
8	2	3									
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	都市基盤								
		基本施策	道路・交通								
		施策の内容	道路の整備・保全								
	目的	既存道路の拡幅整備や、県道岡崎豊明線から主要地方道名古屋岡崎線までの道路整備を行うことにより、歩行者の安全と円滑な交通を確保する。				主たる内容	市道01-4号線（起点：井ヶ谷町池之浦～終点：今川町交差点）の道路整備 延長 3,200m 幅員 13.5～15.0m （両側歩道 幅員 2.5～3.5m）				
		位置づけ									
		関連計画	都市計画マスタープラン、都市交通戦略								
		根拠法令	道路法								
		対象者	市民				事業期間	平成11年度～令和12年度			
	実施方法		■直営 ■委託 □指定管理 □補助・助成 □その他								
	BDO 事業実績 計画 実施 V	5年度実績		6年度実績		7年度実績		8年度計画			
・道路新設改良工事（R4繰越分） 10m ・道路新設改良工事 20m ・用地取得 120㎡		・交差点改良工事 1箇所 ・道路新設改良工事 10m ・移転補償 1式		・交差点改良工事 1箇所 ・道路新設改良工事 40m（R6繰越分） ・交差点改良工事 1箇所 ・道路新設改良工事 10m		（R7繰越分） ・交差点改良工事 1箇所 ・道路新設改良工事 40m					
成果		今川町交差点を6差路から4差路に改良することで、円滑な交通が確保され、周辺道路も含め渋滞の解消を図ることができた。									
課題											
指標名称（単位）				実績値			目標値				
				5年度	6年度	7年度	8年度	10年度			
活動指標		道路用地の面積取得率（％）				100.0	—	—	—	—	
活動指標		道路整備率（％）				92.2	92.2	92.2	93.8	93.8	
他市との比較検証											
C 事業コスト		単位：千円		5年度（決算）	6年度（決算）	7年度（決算）	8年度（予算）	7年度事業費内訳			
	事業費 ①		114,049	79,094	278,667	128,795	合計 278,667,200 円				
	財源	特定財源	80,675	28,000	251,907	128,795	委託料 3,465,000 円				
		一般財源	33,374	51,094	26,760	0	工事請負費 274,114,900 円				
	職員人件費 ②		7,289	5,973	8,352	4,191	補償、補填及び賠償金 1,087,300 円				
	総事業費（①+②）		121,338	85,067	287,019	132,986					
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		7年度特定財源名称					
		7年度までの累積事業費		0		都市交通施設整備基金繰入金 前年度繰越金 道路橋りょう債					
9年度以降の事業費見込		0									

会計名			市道01-4号線他道路新設改良事業	担当部	建設部	
一般会計				担当課	道路建設課	
款	項	目		担当係	道路整備第2係	
8	2	3				
C H E D C K ハ 評 価 V	内部評価	各視点からの評価		評価の理由		
		必要性	- 法的業務 - 市民ニーズ、社会需要 - 市民生活上必要である など	高い	当該路線は国道1号線と連絡する重要な路線であり、交通量が多い上に大型車の混入率が高い。また一部区間は通学路として利用されている。しかし、車線幅員や歩道幅員が狭く、交差点で慢性的な交通渋滞が発生しているため、交通の円滑化と安全性の向上を図る必要がある。	
		効率性	- コストの節減、費用対効果 - 執行体制の効率性 - 手段の最適性 など	普通	社会資本整備総合交付金を活用することで、建設コストの低減に努めている。	
		妥当性	- 市が主体となって実施すべき事業であるか - 総合計画との整合性 など	普通	ゆとりある暮らしを支える生活基盤として、道路の拡幅整備や交差点改良を行うことで、交通安全や生活利便性の向上を図るとともに企業の産業活動を促進する。	
		施策への貢献度	- 施策への貢献度 - 目標達成度 - 市民サービスへの効果 など	高い	道路の整備は、県道岡崎豊明線との交差点改良、及びバイパス区間は道路の拡幅が完了しており、交差点の渋滞緩和と旧道沿線地区の良好な住環境の形成（騒音や交通安全確保）に一定の効果がある。	
	今後の方向性		☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 縮小 ☐ 終期設定 ☐ 休止・廃止			
未整備区間の着手に向け、河川管理者と調整を行う。						

会計名			市道01-36号線他道路新設改良事業				担当部		建設部		
一般会計							担当課		道路建設課		
款	項	目					担当係		道路整備第1係		
8	2	3									
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	都市基盤								
		基本施策	道路・交通								
		施策の内容	道路の整備・保全								
	目的	沿線企業との連携による道路拡幅及び歩道内の電線類を地中に埋設することにより、安全で快適な歩行空間を確保する。				主たる内容	市道01-36号線（起点：豊田町2丁目～終点：豊田町3丁目）の道路整備 延長 530m 幅員 13.5m 電線類地中化 バリアフリー化				
		位置づけ	関連計画	無電柱化推進計画							
		根拠法令	道路法、無電柱化の推進に関する法律、電線共同溝の整備等に関する特別措置法								
		対象者	市民、企業				事業期間	令和6年度～令和14年度			
	実施方法	■直営 ■委託 □指定管理 □補助・助成 □その他									
	BDO 事業実績 計画 実施 V	5年度実績	6年度実績		7年度実績			8年度計画			
			・電線類地中化詳細設計		・電線類地中化工事 169m（R6繰越分） ・電線類地中化詳細設計			・電線類地中化工事 253m（R7繰越分） ・電線類地中化工事 169m			
成果								各電線管理者等と調整をし、電線類地中化工事を行うことにより、事業の進捗を図ることができた。			
課題								道路沿線企業や各電線管理者等と引き続き協議・調整を行う必要がある。			
指標名称（単位）				実績値			目標値				
				5年度	6年度	7年度	8年度	10年度			
活動指標		道路整備率（％）			—	0.0	0.0	33.7	53.1		
指標											
他市との比較検証											
C 事業コスト		単位：千円		5年度（決算）	6年度（決算）	7年度（決算）	8年度（予算）	7年度事業費内訳			
	事業費 ①		0	5,676	20,319	428,279	合計	20,319,200 円			
	財源	特定財源	0	0	17,045	427,518	委託料	20,319,200 円			
		一般財源	0	5,676	3,274	761					
	職員人件費 ②		0	3,504	8,104	10,498					
	総事業費（①＋②）		0	9,180	28,423	438,777					
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0	7年度特定財源名称						
		7年度までの累積事業費		0	都市交通施設整備基金繰入金 前年度繰越金						
		9年度以降の事業費見込		0							

会計名			市道01-36号線他道路新設改良事業	担当部	建設部
一般会計				担当課	道路建設課
款	項	目		担当係	道路整備第1係
8	2	3			
C H E D C K ハ 評 価 V	内部評価	各視点からの評価			評価の理由
		必要性	・ 法的業務 ・ 市民ニーズ、社会需要 ・ 市民生活上必要である など	高い	電線類地中化は、歩行者の安全で快適な歩行空間を確保する上で必要である。
		効率性	・ コストの節減、費用対効果 ・ 執行体制の効率性 ・ 手段の最適性 など	普通	電線類地中化に合わせて、歩道のバリアフリー化を実施することで効率的な事業推進を図ることができる。また、道路沿線企業の用地を無償借地することにより、コスト縮減が図られる。
		妥当性	・ 市が主体となって実施すべき事業であるか ・ 総合計画との整合性 など	普通	道路の改良事業であるため、道路管理者が行うべき公共性の高い事業である。
		施策への貢献度	・ 施策への貢献度 ・ 目標達成度 ・ 市民サービスへの効果 など	高い	電線類地中化を行うことで良好な歩行空間が確保され、市民が利用しやすい道路とすることができる。
		今後の方向性		☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 縮小 ☐ 終期設定 ☐ 休止・廃止	
早期供用開始に向け道路沿線企業や各電線管理者等と協議を進め、豊田2丁目交差点前については令和9年度末完了に向け工事を行う。					

会計名			市道01-40号線他道路新設改良事業				担当部	建設部		
一般会計							担当課	道路建設課		
款	項	目					担当係	道路整備第1係		
8	2	3								
PLAN 事業概要 計画V	総合計画 施策体系	分野	都市基盤							
		基本施策	道路・交通							
		施策の内容	道路の整備・保全							
	目的	バイパス機能を持った幹線道路を整備することにより、慢性的な交通渋滞を緩和し、市街地に流入する通過交通を抑制する。				主たる内容	市道01-40号線（起点：中手町3丁目～終点：熊野町6丁目）の道路整備 延長 1,600m 幅員 12.0～15.5m			
		位置づけ	関連計画					都市計画マスタープラン、都市交通戦略		
		根拠法令	道路法							
		対象者	市民		事業期間		平成11年度～令和15年度			
	実施方法	■直営 ■委託 □指定管理 □補助・助成 □その他								
	BDO 事業実績 計画V	5年度実績	・JR工事委託（橋りょう下部工工事）2基（継続費R4～R7） ・橋りょう上部工製作（継続費R4～R7）							
			6年度実績	・JR工事委託（橋りょう下部工工事、上部工工事）（継続費R4～R7） ・橋りょう上部工製作（継続費R4～R7） ・道路予備設計 ・地質調査						
7年度実績				・JR橋りょう上部工工事委託（継続費R4～R7） ・橋りょう上部工製作（継続費R4～R7） ・橋りょう下部工工事2基（継続費R7～R8） ・用地取得 1,399㎡ ・橋りょう詳細設計（R6繰越分） ・道路予備設計						
				8年度計画 ・橋りょう下部工工事2基（継続費R7～R8） ・橋りょう下部工工事3基（継続費R8～R9） ・取付道路擁壁予備設計 ・用地取得 95㎡（R7繰越分） ・橋りょう詳細設計 ・用地取得 90㎡						
成果		JR工事委託や橋りょう上部工・下部工の施工管理を適切に行い、事業の進捗を図ることができた。また、国道155号北側における河川協議を進め、概ね合意を得ることができた。								
課題		道路整備を進めるため、引き続き地権者との交渉を行う必要がある。								
指標名称（単位）		実績値			目標値					
		5年度	6年度	7年度	8年度	10年度				
活動指標		道路整備率（％）	15.1	17.5	18.3	19.9	27.6			
活動指標										
C 実施 コスト	他市との比較検証									
	単位：千円	5年度（決算）	6年度（決算）	7年度（決算）	8年度（予算）	7年度事業費内訳				
	事業費①	354,557	860,698	804,846	501,395	合計 804,846,147 円				
	財源	特定財源	205,823	821,978	803,261	500,079	需用費 20,200 円 委託料 646,351,982 円 使用料及び賃借料 2,657,765 円			
		一般財源	148,734	38,720	1,585	1,316	工事請負費 43,369,206 円 公有財産購入費 61,735,098 円 補償、補填及び賠償金 50,711,896 円			
	職員人件費②	7,826	8,919	11,411	10,667					
	総事業費（①＋②）	362,383	869,617	816,257	512,062					
	建設事業	全体事業費（単位：千円）	0	7年度特定財源名称						
		7年度までの累積事業費	0	社会資本整備総合交付金(国) 都市交通施設整備基金繰入金 前年度繰越金 道路橋りょう債						
		9年度以降の事業費見込	0							

会計名			市道01-40号線他道路新設改良事業	担当部	建設部	
一般会計				担当課	道路建設課	
款	項	目		担当係	道路整備第1係	
8	2	3				
C H E D C K ハ 評 価 V	内部評価	各視点からの評価			評価の理由	
		必要性	・ 法的業務 ・ 市民ニーズ、社会需要 ・ 市民生活上必要である など	高い	市街地における交通渋滞が慢性化していることから、南北地区間の移動に時間を要している。また通過車両が生活道路に流入し、生活道路の交通安全の確保が危惧される状況であるため、これらの対策を講じる必要性が高い。	
		効率性	・ コストの節減、費用対効果 ・ 執行体制の効率性 ・ 手段の最適性 など	普通	長期的な展望から、（仮）南北縦貫道路の一部区間の整備を行い、将来的な道路網を形成するため、広く市民からの理解を得て事業を推進する。また、社会資本整備総合交付金を活用して道路整備を進める。	
		妥当性	・ 市が主体となって実施すべき事業であるか ・ 総合計画との整合性 など	普通	バイパス機能を持つ道路整備を行うことで、交通の円滑化や市街地内の渋滞が緩和され、地域間の交流が活発になる。また市民の身近な道路の安全性が確保されることで、良好な住環境が提供できる。	
		施策への貢献度	・ 施策への貢献度 ・ 目標達成度 ・ 市民サービスへの効果 など	高い	道路整備により、既存の幹線道路の混雑緩和と生活利便性の向上が期待できる。	
	今後の方向性		☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 縮小 ☐ 終期設定 ☐ 休止・廃止			
	早期供用開始に向け設計及び関係機関協議を進め、引き続き橋りょう上部工・下部工の工事を行う。					

会計名			市道02-5号線他道路新設改良事業				担当部		建設部		
一般会計							担当課		道路建設課		
款	項	目					担当係		道路整備第1係		
8	2	3									
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	都市基盤								
		基本施策	道路・交通								
		施策の内容	道路の整備・保全								
	目的	県道宮上知立線の整備に伴い設置される交差点に接続する道路を整備することにより、県道に分断される地区の安全及び利便性を確保する。				主たる内容	市道02-5号線他（起点：一里山町伐払～終点：一里山町南本山）の道路整備 延長 2,300m 幅員 6.0～13.0m				
		位置づけ									
		関連計画									
		根拠法令	道路法								
	対象者	市民				事業期間	平成26年度～				
	実施方法	■直営 ■委託 □指定管理 □補助・助成 □その他									
	BDO 事業実績 計画 実施 V	5年度実績		6年度実績		7年度実績		8年度計画			
・道路新設改良工事 440m ・用地取得 56㎡ （R4線越分） ・道路新設改良工事 310m ・用地取得 2,332㎡		・道路新設改良工事 210m （R5線越分） ・道路新設改良工事 440m		・道路新設改良工事 70m （R6線越分） ・道路新設改良工事 210m		・道路新設改良工事 120m （R7線越分） ・道路新設改良工事 70m					
成果		県道宮上知立線南側の道路整備は完了し、供用開始することができた。									
課題		県道宮上知立線北側の未整備区間において、用地交渉が難航している。									
指標名称（単位）				実績値			目標値				
				5年度	6年度	7年度	8年度	10年度			
活動指標		道路用地の面積取得率（％）				90.9	90.9	90.9	90.9	90.9	
活動指標		道路整備率（％）				52.2	60.9	70.0	73.0	73.0	
他市との比較検証											
C 事業コスト		単位：千円		5年度（決算）	6年度（決算）	7年度（決算）	8年度（予算）	7年度事業費内訳			
	事業費 ①		277,596	277,846	204,692	103,400	合計 204,692,186 円				
	財源	特定財源	213,080	277,455	204,367	94,000	使用料及び賃借料 1,225,386 円				
		一般財源	64,516	391	325	9,400	工事請負費 203,466,800 円				
	職員人件費 ②		23,249	12,344	9,179	4,826					
	総事業費（①＋②）		300,845	290,190	213,871	108,226					
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		7年度特定財源名称					
		7年度までの累積事業費		0		都市交通施設整備基金繰入金 前年度繰越金 道路橋りょう債					
9年度以降の事業費見込		0									

会計名			市道02-5号線他道路新設改良事業	担当部	建設部	
一般会計				担当課	道路建設課	
款	項	目		担当係	道路整備第1係	
8	2	3				
C H E D C K ハ 評 価 V	内部評価	各視点からの評価			評価の理由	
		必要性	・ 法的業務 ・ 市民ニーズ、社会需要 ・ 市民生活上必要である など	普通	県道宮上知立線により分断される地区の利便性及び安全を確保に必要な事業である。	
		効率性	・ コストの節減、費用対効果 ・ 執行体制の効率性 ・ 手段の最適性 など	普通	県道整備の事業進捗に合わせて、用地購入、道路整備を進めていくため、効率的な事業進捗が図られる。	
		妥当性	・ 市が主体となって実施すべき事業であるか ・ 総合計画との整合性 など	普通	市民生活の利便性及び安全を確保するため、公共性の高い事業である。	
		施策への貢献度	・ 施策への貢献度 ・ 目標達成度 ・ 市民サービスへの効果 など	普通	県道宮上知立線により分断される地区の往来が可能となる。	
	今後の方向性		☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 縮小 ☐ 終期設定 ☐ 休止・廃止			
	県道宮上知立線北側については、取得済み用地内の暫定工事を行い、整備効果を高めるとともに今後の方向性について地区と協議を行う必要がある。					

会計名			市道3-807号線他道路新設改良事業				担当部		建設部			
一般会計							担当課		道路建設課			
款							項目		担当係		事業推進係	
8							2		3			
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野		都市基盤								
		基本施策		道路・交通								
		施策の内容		道路の整備・保全								
	目的		依佐美地区工業団地の2期開発に伴い、必要となる周辺道路を整備することにより、交通の円滑化と歩行者の安全確保を図る。			主たる内容		市道3-807号線（起点：半城土町山之腰～終点：小垣江町西湫）の道路整備 延長 673m 幅員 16.0m				
	位置づけ	関連計画		都市計画マスタープラン、自転車活用推進計画								
		根拠法令		道路法								
	対象者		市民、企業			事業期間		令和7年度～令和14年度				
	実施方法		■直営 ■委託 □指定管理 □補助・助成 □その他									
	BDO 事業実績 計画 実施 V	5年度実績		6年度実績		7年度実績		8年度計画				
						・道路予備設計 ・用地測量 ・用地取得 1,675㎡		・道路詳細設計 ・用地取得 1,367㎡ ・企業庁への負担金（道路詳細設計） （R7繰越分） ・道路予備設計 ・用地測量				
成果		道路設計、用地境界立会及び用地買収を行うことにより、事業の進捗を図ることができた。										
課題		道路整備を進めるため、引き続き地権者や関係機関と調整を行う必要がある。										
指標名称（単位）				実績値			目標値					
				5年度	6年度	7年度	8年度	10年度				
活動指標		道路用地の面積取得率（％）			—	—	19.1	34.6	100.0			
活動指標		道路整備率			—	—	—	—	30.7			
他市との比較検証												
C 事業コスト		単位：千円		5年度（決算）	6年度（決算）	7年度（決算）	8年度（予算）	7年度事業費内訳				
	事業費 ①		0	0	49,160	104,197	合計 49,159,500 円					
	財源	特定財源	0	0	24,000	89,908	需用費 10,000 円					
		一般財源	0	0	25,160	14,289	委託料 4,092,000 円					
	職員人件費 ②		0	0	2,398	8,466	公有財産購入費 45,057,500 円					
	総事業費（①+②）		0	0	51,558	112,663						
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0	7年度特定財源名称							
		7年度までの累積事業費		0	都市交通施設整備基金繰入金							
		9年度以降の事業費見込		0								

会計名			市道3-807号線他道路新設改良事業	担当部	建設部	
一般会計				担当課	道路建設課	
款	項	目		担当係	事業推進係	
8	2	3				
C H E D C K ハ 評 価 V	内部評価	各視点からの評価			評価の理由	
		必要性	・ 法的業務 ・ 市民ニーズ、社会需要 ・ 市民生活上必要である など	高い	依佐美地区工業団地へのアクセス道路を整備する事業であり、車両の円滑な通行と自転車・歩行者の安全な通行のために必要な事業である。また企業立地が促進されることで、雇用の促進、地域経済の活性化につながる。	
		効率性	・ コストの節減、費用対効果 ・ 執行体制の効率性 ・ 手段の最適性 など	普通	県費補助の活用により、建設コストの低減に努めている。	
		妥当性	・ 市が主体となって実施すべき事業であるか ・ 総合計画との整合性 など	普通	総合計画に位置づけられた依佐美地区工業団地へのアクセス道路であり、市が主体となって実施すべき事業である。	
		施策への貢献度	・ 施策への貢献度 ・ 目標達成度 ・ 市民サービスへの効果 など	高い	依佐美地区工業団地への車両の円滑な通行と自転車・歩行者の安全な通行が確保される。	
	今後の方向性		☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 縮小 ☐ 終期設定 ☐ 休止・廃止			
	愛知県企業庁による刈谷依佐美（2期）地区工業団地開発の完了に間に合うよう、引き続き、設計、用地取得及び関係機関協議を進める。					

会計名			市道02-14号線他道路新設改良事業				担当部		建設部	
一般会計							担当課		道路建設課	
款	項	目					担当係		道路整備第2係	
8	2	3								
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	都市基盤							
		基本施策	道路・交通							
		施策の内容	道路の整備・保全							
	目的	県道今川刈谷停車場線から一般廃棄物処理場へのアクセス道路及び泉田地区の幹線道路として整備を行うことにより、処理場利用者や周辺住民の利便性を向上させる。				主たる内容	市道02-14号線（起点：泉田町折戸～終点：泉田町南新田）の道路整備 延長 1,840m 幅員 12.0m			
		位置づけ								
		関連計画								
		根拠法令	道路法							
	対象者	市民				事業期間	～ 令和7年度			
	実施方法	■直営 ■委託 □指定管理 □補助・助成 □その他								
	BDO 事業実績 計画 V	5年度実績		6年度実績		7年度実績		8年度計画		
・道路新設改良工事 180m（R4繰越分） ・用排水路整備工事 360m		・道路新設改良工事 250m（R5繰越分） ・道路新設改良工事 180m		（R6繰越分） ・道路新設改良工事 440m						
成果		未供用区間の道路整備が完了し、全線供用開始することができた。								
課題										
指標名称（単位）				実績値			目標値			
				5年度	6年度	7年度	8年度	10年度		
活動指標		道路整備率（％）				87.7	88.2	100.0	—	—
活動指標										
他市との比較検証										
C 事業コスト		単位：千円		5年度（決算）	6年度（決算）	7年度（決算）	8年度（予算）	7年度事業費内訳		
	事業費 ①		97,856	86,976	217,064	0	合計	217,064,100 円		
	財源	特定財源	81,655	82,857	217,064	0	工事請負費	217,064,100 円		
		一般財源	16,201	4,119	0	0				
	職員人件費 ②		3,530	4,778	4,589	0				
	総事業費（①＋②）		101,386	91,754	221,653	0				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		7年度特定財源名称				
		7年度までの累積事業費		0		市町村土木事業費補助金（県）前年度繰越金				
		9年度以降の事業費見込		0						

会計名			市道02-14号線他道路新設改良事業	担当部	建設部
一般会計				担当課	道路建設課
款	項	目		担当係	道路整備第2係
8	2	3			
C H E D C K ハ 評 価 シ ト	各視点からの評価			評価の理由	
	必要性	・ 法的業務 ・ 市民ニーズ、社会需要 ・ 市民生活上必要である など		高い	不燃物処理場へ向かうアクセス道路で、泉田地区内の主要な道路となり、市民の利便性向上に重要な道路である。
	効率性	・ コストの節減、費用対効果 ・ 執行体制の効率性 ・ 手段の最適性 など		普通	県費補助を活用することで、建設コストの低減に努めている。
	妥当性	・ 市が主体となって実施すべき事業であるか ・ 総合計画との整合性 など		普通	市民生活の利便性及び安全を確保するため、公共性の高い事業である。
	施策への貢献度	・ 施策への貢献度 ・ 目標達成度 ・ 市民サービスへの効果 など		普通	不燃物処理場利用者及び地域住民の利便性が向上すると共に、安全で円滑な交通が確保できる。
	今後の方向性		□拡充 □現状維持 □改善・効率化 □縮小 □終期設定 □休止・廃止		
	令和8年2月完了				

会計名			市道1-87号線他道路新設改良事業				担当部		建設部		
一般会計							担当課		道路建設課		
款	項	目					担当係		道路整備第1係		
8	2	3							事業推進係		
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	都市基盤								
		基本施策	道路・交通								
		施策の内容	道路の整備・保全								
	目的	愛教大前交差点の改良を行うことにより、交通の円滑化及び児童、園児等の登下校の安全性を確保する。				主たる内容	市道1-87号線（起点：井ヶ谷町下前田～終点：井ヶ谷町中前田）の道路整備 延長 290m 幅員 9.0m				
		位置づけ									
		関連計画									
		根拠法令	道路法								
	対象者	市民				事業期間	令和5年度～				
	実施方法	■直営 ■委託 □指定管理 □補助・助成 □その他									
	BDO 事業実績 計画 実施 V	5年度実績		6年度実績		7年度実績		8年度計画			
・道路詳細設計 ・用地取得 595㎡		(R5繰越分) ・道路詳細設計		・道路新設改良工事 40m		(R7繰越分) ・道路新設改良工事 40m					
成果		道路整備を行うことにより、事業の進捗を図ることができた。									
課題		愛教大前交差点西側の未整備区間において、用地交渉が難航している。									
指標名称（単位）				実績値			目標値				
				5年度	6年度	7年度	8年度	10年度			
活動指標		道路整備率（％）				0.0	0.0	0.0	13.8	13.8	
活動指標											
他市との比較検証											
C 事業コスト		単位：千円		5年度（決算）	6年度（決算）	7年度（決算）	8年度（予算）	7年度事業費内訳			
	事業費 ①		59,654	12,361	34,311	45,890	合計 34,311,444 円				
	財源	特定財源	0	12,361	17,000	45,890	需用費 2,000 円				
		一般財源	59,654	0	17,311	0	委託料 340,692 円				
	職員人件費 ②		2,609	4,699	3,060	1,820	工事請負費 25,500,000 円				
	総事業費（①+②）		62,263	17,060	37,371	47,710	公有財産購入費 6,743,644 円				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0	7年度特定財源名称		補償、補填及び賠償金 1,725,108 円				
		7年度までの累積事業費		0	都市交通施設整備基金繰入金						
9年度以降の事業費見込		0									

会計名			市道1－87号線他道路新設改良事業	担当部	建設部		
一般会計				担当課	道路建設課		
款	項	目		担当係	道路整備第1係		
8	2	3			事業推進係		
C H E D C K ハ 評 価 V	内部評価	各視点からの評価			評価の理由		
		必要性	・ 法的業務 ・ 市民ニーズ、社会需要 ・ 市民生活上必要である など	普通	現状は5差路の交差形状であり交通安全の確保が危惧される状況であるため、4差路交差点に改良する必要がある。		
		効率性	・ コストの節減、費用対効果 ・ 執行体制の効率性 ・ 手段の最適性 など	普通	整備効果を早急に発揮できるよう、整備必要期間を可能な限り短くするよう調整を行う。		
		妥当性	・ 市が主体となって実施すべき事業であるか ・ 総合計画との整合性 など	普通	道路利用者の安全性の向上を目的に実施されている事業である。		
		施策への貢献度	・ 施策への貢献度 ・ 目標達成度 ・ 市民サービスへの効果 など	普通	交差点の改良を行うことで、交通の円滑化が図られる。		
		今後の方向性		☐ 拡充 ☐ 現状維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 縮小 ☐ 終期設定 ☒ 休止・廃止			
		並行する県道名古屋岡崎線豊明刈谷工区の完成などを踏まえ、本事業の必要性について再検討する必要がある。					

会計名			ウイングデッキ整備事業				担当部		建設部	
一般会計							担当課		道路建設課	
款							担当係		事業推進係	
項									道路整備第2係	
目										
8			4		3					

PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	都市基盤					
		基本施策	道路・交通					
		施策の内容	安全・快適な歩行空間の充実					
		目的	刈谷市中心市街地まちづくり基本計画に基づく刈谷駅周辺の「人を引き寄せる回遊とにぎわいのあるまちづくり」に向けて、安全で快適な歩行空間を形成する。		主たる内容	○横断歩道橋整備 1箇所 ○南北連絡通路延伸整備 1箇所		
	位置づけ	関連計画	中心市街地まちづくり基本計画					
		根拠法令	道路法、都市計画法、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律					
	対象者	市民	事業期間	令和2年度 ~ 令和8年度				
		実施方法	■直営 ■委託 □指定管理 ■補助・助成 □その他					
	BDO 事業実績 計画 V	5年度実績	6年度実績		7年度実績		8年度計画	
			・ウイングデッキの工事（下部工）		・ウイングデッキの工事（下部工・上部工） ・愛知県への負担金（エレベーター整備）（R6繰越分） ・ウイングデッキの工事（下部工）		・ウイングデッキの工事（下部工・上部工・接続デッキ） ・愛知県への負担金（エレベーター整備）（R7繰越分） ・ウイングデッキの工事（下部工・上部工） ・愛知県への負担金（エレベーター整備）	
・ウイングデッキの工事（下部工）			・ウイングデッキの工事（下部工・上部工）		・ウイングデッキの工事（下部工・上部工）			
・ウイングデッキの工事（下部工）			・ウイングデッキの工事（下部工・上部工）		・ウイングデッキの工事（下部工・上部工）			
成果		関係者と協議を行うことにより、事業の進捗が図ることができた。						
課題								
指標名称（単位）		実績値			目標値			
		5年度	6年度	7年度	8年度	10年度		
活動指標		ウイングデッキ（横断歩道橋）整備率（％）	100.0	—	—	—	—	
活動指標		ウイングデッキ（南北連絡通路延伸）整備率（％）	0.0	3.3	41.4	100.0	—	
他市との比較検証								
C 事業コスト	単位：千円		5年度（決算）	6年度（決算）	7年度（決算）	8年度（予算）	7年度事業費内訳	
	事業費 ①		125,093	10,282	220,507	1,375,336	合計 220,507,214 円	
	財源	特定財源	125,063	6,000	187,374	1,374,369	委託料 29,800,100 円	
		一般財源	30	4,282	33,133	967	使用料及び賃借料 19,501 円	
	職員人件費 ②		4,911	6,132	6,905	7,281	工事請負費 181,012,000 円	
	総事業費（①＋②）		130,004	16,414	227,412	1,382,617	補償、補填及び賠償金 9,675,613 円	
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		7年度特定財源名称		
		7年度までの累積事業費		0		都市構造再編集集中支援事業費補助金（国）		
		9年度以降の事業費見込		0		都市交通施設整備基金繰入金前年度繰越金		

会計名			ウイングデッキ整備事業	担当部	建設部
一般会計				担当課	道路建設課
款	項	目		担当係	事業推進係
8	4	3			道路整備第2係
C H E D C K ハ 評 価 シ ト	各視点からの評価			評価の理由	
	必要性	・ 法的業務 ・ 市民ニーズ、社会需要 ・ 市民生活上必要である など		高い	バリアフリー経路として指定されていることから、誰もが安全に快適に移動できる空間を確保する必要がある。
	効率性	・ コストの節減、費用対効果 ・ 執行体制の効率性 ・ 手段の最適性 など		普通	愛知県や民間開発と連携することで、整備効果をより効率よく発揮できる。
	妥当性	・ 市が主体となって実施すべき事業であるか ・ 総合計画との整合性 など		普通	各種計画に位置付けられた施設であり、市が率先し主体となって進める必要がある。
	施策への貢献度	・ 施策への貢献度 ・ 目標達成度 ・ 市民サービスへの効果 など		高い	安全で快適な歩行空間の確保が可能となる。
	今後の方向性		□拡充 □現状維持 □改善・効率化 □縮小 □終期設定 ■休止・廃止		
	令和9年3月完了予定				

会計名 一般会計			都市計画道路3・4・9逢見線電線類地中 化事業				担当部		建設部		
款 項 目							担当課		道路建設課		
8 4 3							担当係		道路整備第2係		
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	都市基盤								
		基本施策	道路・交通								
		施策の内容	安全・快適な歩行空間の充実								
	目的	刈谷市中心市街地まちづくり基本計画に基づく刈谷駅周辺の「人を引き寄せる回遊とにぎわいのあるまちづくり」に向けて、歩道内の電線類を地中に埋設することにより、安心で快適な歩行空間を確保する。				主たる内容	都市計画道路逢見線（起点：桜町1丁目～終点：桜町2丁目）の電線類地中化 延長 224m 幅員 18.0m 電線類地中化 バリアフリー化				
		位置づけ									
		関連計画	都市計画マスタープラン、無電柱化推進計画								
		根拠法令	道路法、都市計画法、電線共同溝整備等に関する特別措置法、無電柱化の推進に関する法律								
	対象者		市民			事業期間		令和5年度 ～ 令和12年度			
	実施方法		■直営 ■委託 □指定管理 □補助・助成 □その他								
	BDO 事業実績 計画 実施 V	5年度実績		6年度実績		7年度実績		8年度計画			
・道路影響等調査設計 ・電線共同溝詳細設計		(R5繰越分) ・道路影響等調査設計 ・電線共同溝詳細設計		・電線類地中化工事 153m		(R7繰越分) ・電線類地中化工事 153m					
成果		電線類地中化工事を行うことにより、事業の進捗を図ることができた。									
課題		電線類地中化工事を進めるため、引き続き関連する事業や各電線管理者等との調整を行う必要がある。									
指標名称（単位）				実績値			目標値				
				5年度	6年度	7年度	8年度	10年度			
活動指標		電線類地中化率（％）			—	—	0.0	36.5	52.6		
活動指標											
他市との比較検証											
C 事業コスト		単位：千円		5年度（決算）	6年度（決算）	7年度（決算）	8年度（予算）	7年度事業費内訳			
	事業費 ①		0	20,950	0	84,000	合計 0 円				
	財源	特定財源	0	20,950	0	84,000					
		一般財源	0	0	0	0					
	職員人件費 ②		0	796	1,902	1,228					
	総事業費（①＋②）		0	21,746	1,902	85,228					
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0	7年度特定財源名称						
		7年度までの累積事業費		0							
9年度以降の事業費見込		0									

会計名			都市計画道路3・4・9逢見線電線類地中 化事業	担当部	建設部
一般会計				担当課	道路建設課
款	項	目		担当係	道路整備第2係
8	4	3			
C H E D C K ハ 評 価 シ ト	各視点からの評価			評価の理由	
	必要性	・ 法的業務 ・ 市民ニーズ、社会需要 ・ 市民生活上必要である など		高い	電線類地中化は、歩行者の安全で快適な歩行空間を確保する上で必要である。
	効率性	・ コストの節減、費用対効果 ・ 執行体制の効率性 ・ 手段の最適性 など		普通	関連する事業に合わせて事業を実施することでコストの縮減を行い、効率的な事業進捗を図るとともに経費の節減が図られる。
	妥当性	・ 市が主体となって実施すべき事業であるか ・ 総合計画との整合性 など		普通	道路の改良事業であるため、道路管理者が行うべき公共性の高い事業である。
	施策への 貢献度	・ 施策への貢献度 ・ 目標達成度 ・ 市民サービスへの効果 など		高い	電線類地中化を行うことで良好な歩行空間が確保され、居心地が良く歩きたくなるまちなかの形成が図られる。
	今後の方向性		☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 縮小 ☐ 終期設定 ☐ 休止・廃止		
関連する事業や各電線管理者等との調整を行い、早期完了に向け事業進捗を図る。					

会計名 一般会計			都市計画道路3・5・561高須線道路新設改良事業				担当部 建設部		
款 項 目 8 4 3							担当課 道路建設課		
							担当係 事業推進係		
							道路整備第2係		
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	都市基盤						
		基本施策	道路・交通						
		施策の内容	道路の整備・保全						
	目的	道路拡幅及び歩道内の電線類を地中に埋設することにより、安全で快適な歩行空間を確保する。				主たる内容	都市計画道路高須線（起点：住吉町3丁目～終点：田町4丁目）の道路整備 延長 300m 幅員 18.0m 電線類地中化 バリアフリー化		
		位置づけ	関連計画 都市計画マスタープラン、無電柱化推進計画、バリアフリー基本構想、自転車活用推進計画						
		根拠法令	道路法、都市計画法、電線共同溝等の整備に関する特別措置法、無電柱化の推進に関する法律						
		対象者	市民		事業期間		平成24年度～令和15年度		
	実施方法	■直営 ■委託 □指定管理 □補助・助成 □その他							
	BDO 事業実績 計画 実施 V	5年度実績		6年度実績		7年度実績		8年度計画	
				・道路詳細設計 ・橋梁詳細設計 ・電線類地中化詳細設計 ・用地取得 105㎡ ・物件等補償		（R6繰越分） ・道路詳細設計 ・橋梁詳細設計 ・電線類地中化詳細設計 ・用地取得 105㎡ ・物件等補償		・仮設道路築造	
成果		地権者と協議し、交渉を進めることにより、用地取得及び物件等補償を完了することができた。また各電線管理者等と協議し、設計を進めることにより、事業の進捗を図ることができた。							
課題		道路整備を進めるため、引き続き電線類地中化にかかる法手続き及び関係機関等との協議を進める必要がある。							
指標名称（単位）				実績値		目標値			
				5年度	6年度	7年度	8年度	10年度	
活動指標		道路用地の面積取得率（％）		—		0.0	100.0	—	—
活動指標		道路整備率（％）		—		—	—	19.4	19.4
他市との比較検証									
C 事業コスト		単位：千円		5年度（決算）	6年度（決算）	7年度（決算）	8年度（予算）	7年度事業費内訳	
	事業費 ①		0	71,210	80,199	183,926	合計 80,199,418 円		
	財源	特定財源	0	45,405	80,199	171,000	委託料 36,648,700 円		
		一般財源	0	25,805	0	12,926	公有財産購入費 19,179,160 円		
	職員人件費 ②		0	5,097	4,052	6,561	補償、補填及び賠償金 24,371,558 円		
	総事業費（①＋②）		0	76,307	84,251	190,487			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0	7年度特定財源名称				
		7年度までの累積事業費		0	社会資本整備総合交付金(国)前年度繰越金				
		9年度以降の事業費見込		0					

会計名			都市計画道路3・5・561高須線道路新設改良事業		担当部	建設部
一般会計					担当課	道路建設課
款	項	目			担当係	事業推進係
8	4	3				道路整備第2係
C H E D C K ハ 評 価 シ ト	各視点からの評価				評価の理由	
	必要性	・ 法的業務 ・ 市民ニーズ、社会需要 ・ 市民生活上必要である など		高い	刈谷駅から近隣病院へ向かうバリアフリー路線として指定されている。また刈谷駅から南部へ向かう主要な道路であることから、誰もが安全に通行できる環境を構築する必要がある。	
	効率性	・ コストの節減、費用対効果 ・ 執行体制の効率性 ・ 手段の最適性 など		普通	近隣の学校用地の擁壁改築工事と同調することで、コストの縮減を図ることが可能となる。	
	妥当性	・ 市が主体となって実施すべき事業であるか ・ 総合計画との整合性 など		普通	市道の整備であり、道路管理者が行うべき公共性の高い工事である。	
	施策への貢献度	・ 施策への貢献度 ・ 目標達成度 ・ 市民サービスへの効果 など		高い	道路を整備することにより、安全な通行環境を確保することができる。	
	今後の方向性		□ 拡充 ■ 現状維持 □ 改善・効率化 □ 縮小 □ 終期設定 □ 休止・廃止			
	関係機関等との協議を進め工事に着手し、早期供用開始に向け、事業進捗を図る。					

会計名 一般会計			都市計画道路3・5・87中町線他道路新設改良事業				担当部		建設部			
款 項 目							担当課		道路建設課			
8 4 3							担当係		事業推進係			
									道路整備第2係			
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	都市基盤									
		基本施策	道路・交通									
		施策の内容	道路の整備・保全									
	目的	刈谷市駅周辺の一体的なまちづくりの一環として、道路及び駅前広場の整備を行うことで、道路利用者の利便性及び安全性を確保する。				主たる内容	都市計画道路中町線（起点：御幸町4丁目～終点：広小路3丁目）の道路整備 延長 130m 幅員 15.0m 電線類地中化 バリアフリー化					
		位置づけ										
		関連計画	都市計画マスタープラン、無電柱推進計画、自転車活用推進計画									
		根拠法令	道路法、都市計画法、電線共同溝の整備等に関する特別措置法、無電柱化の推進に関する法律									
	対象者		市民			事業期間		令和6年度～令和13年度				
	実施方法		■直営 ■委託 □指定管理 □補助・助成 □その他									
	BDO 事業実績 計画 V	5年度実績		6年度実績		7年度実績		8年度計画				
		・道路予備設計 ・電線類地中化予備設計		(R6繰越分) ・道路予備設計 ・電線類地中化予備設計		※都市計画道路3・5・573中町線他道路新設改良事業にて実施 ・道路詳細設計 ・電線類地中化詳細設計 ・用地取得 542㎡						
成果		愛知県及び各電線管理者と協議し、設計を進めることにより、事業の進捗を図ることができた。										
課題		道路整備を進めるため、引き続き、地元及び関係機関との協議を進める必要がある。										
指標名称（単位）				実績値			目標値					
				5年度	6年度	7年度	8年度	10年度				
活動指標		道路用地の面積取得率（％）				—	0.0	0.0	100.0	—		
活動指標		道路整備率（％）				—	—	—	—	60.2		
他市との比較検証												
C 事業コスト		単位：千円		5年度（決算）	6年度（決算）	7年度（決算）	8年度（予算）	7年度事業費内訳				
	事業費 ①		0	4,200	12,075	159,004	合計		12,074,500 円			
	財源	特定財源	0	0	12,075	158,200	委託料		12,074,500 円			
		一般財源	0	4,200	0	804						
	職員人件費 ②		0	1,513	2,811	5,715						
	総事業費（①＋②）		0	5,713	14,886	164,719						
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0	7年度特定財源名称							
		7年度までの累積事業費		0	前年度繰越金							
		9年度以降の事業費見込		0								

会計名			都市計画道路3・5・87中町線他道路新設改良事業		担当部	建設部
一般会計					担当課	道路建設課
款	項	目			担当係	事業推進係
8	4	3				道路整備第2係
C H E D C K ハ 評 価 V	内部評価	各視点からの評価			評価の理由	
		必要性	・ 法的業務 ・ 市民ニーズ、社会需要 ・ 市民生活上必要である など	高い	民間再開発によるまちづくりが進められており、連携して事業を進める必要がある。また、刈谷市駅と亀城公園周辺エリアとを結ぶルートであり、安全に通行できる環境を構築する必要がある。	
		効率性	・ コストの節減、費用対効果 ・ 執行体制の効率性 ・ 手段の最適性 など	普通	民間再開発との調整によりセットバックを促すことで、公共用地を生み出すことが可能である。	
		妥当性	・ 市が主体となって実施すべき事業であるか ・ 総合計画との整合性 など	普通	県との調整により市道と県道の読み替えを行うこととしている。めざすべきまちづくりの実現に向け、公共性の高い事業である。	
		施策への貢献度	・ 施策への貢献度 ・ 目標達成度 ・ 市民サービスへの効果 など	高い	道路を整備することで安全な通行環境を確保することができる。	
	今後の方向性		☐ 拡充 ☒ 現状維持 ☐ 改善・効率化 ☐ 縮小 ☐ 終期設定 ☐ 休止・廃止			
	関係機関協議等との協議を進め工事に着手し、早期供用開始に向け、事業進捗を図る。					

会計名			道路用地等管理事業				担当部	建設部		
一般会計							担当課	道路建設課		
款	項	目					担当係	道路整備第2係		
8	2	3								
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	都市基盤							
		基本施策	道路・交通							
		施策の内容	道路の整備・保全							
	目的	取得済み道路用地等の草刈り、碎石敷均し等を行い安全面等の維持管理を図る。				主たる内容	取得した用地を整備実施するまでの期間、定期的に草刈を行う。また、必要に応じ安全面を考慮して碎石の敷均しを行う。			
		位置づけ								
		関連計画								
		根拠法令								
	対象者						事業期間	～		
	実施方法		■直営 ■委託 □指定管理 □補助・助成 □その他							
	BDO 事業実績 計画 実施 V	5年度実績		6年度実績		7年度実績		8年度計画		
・道路事業用地管理（除草、碎石敷均し）		・道路事業用地管理（除草、碎石敷均し） 9,950㎡		・道路事業用地管理（除草、碎石敷均し） 8,630㎡		・道路事業用地管理（除草、碎石敷均し） 9,910㎡				
成果		道路用地として取得した土地の維持管理が適切に行われている。								
課題										
指標名称（単位）				実績値		目標値				
				5年度	6年度	7年度	8年度	10年度		
指標										
指標										
他市との比較検証										
C 事業コスト		単位：千円		5年度（決算）	6年度（決算）	7年度（決算）	8年度（予算）	7年度事業費内訳		
	事業費 ①		9,833	9,301	8,558	7,868	合計	8,558,000 円		
	財源	特定財源	1,003	1,158	0	1	委託料	7,788,000 円		
		一般財源	8,830	8,143	8,558	7,867	工事請負費	770,000 円		
	職員人件費 ②		1,343	1,433	1,530	1,185				
	総事業費（①+②）		11,176	10,734	10,088	9,053				
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		7年度特定財源名称				
		7年度までの累積事業費		0		行政財産目的外使用料				
		9年度以降の事業費見込		0						

会計名			道路調査事業				担当部		建設部			
一般会計							担当課		道路建設課			
款							項目		担当係		事業推進係	
8							2		3			
PLAN 事業概要 計画V	総合計画 施策体系	分野		都市基盤								
		基本施策		道路・交通								
		施策の内容		道路の整備・保全								
	目的		整備が必要な道路の基礎的調査を行い、交通の円滑化と安全を確保する。			主たる内容		各整備候補路線の基本的検討を行う。 ○市道01-36号線				
	位置づけ											
	関連計画		都市計画マスタープラン、都市交通戦略									
	根拠法令		道路法									
	対象者		市民			事業期間		～				
	実施方法		■直営 ■委託 □指定管理 □補助・助成 □その他									
	BDO 事業実績 計画V	5年度実績		6年度実績		7年度実績		8年度計画				
・電線類地中化予備設計（豊田町） （R4繰越分） ・道路予備設計（豊田町）		・道路予備設計（一里山町） （R5繰越分） ・電線類地中化予備設計（豊田町）		・県道名古屋岡崎線開通式 ・渋滞対策検討（一里山町） （R6繰越分） ・道路予備設計（一里山町）		（R7繰越分） ・渋滞対策検討（一里山町）						
成果		市道01-36号線（一里山町）について、愛知県、地元及び周辺企業と調整しながら道路予備設計を推進した。また、県道名古屋岡崎線豊明刈谷工区の完成に伴い、豊明市と共同での開通式を開催することができた。										
課題		市道01-36号線（一里山町）について検討を進め、愛知県、国及び公安委員会と協議を行う必要がある。										
指標名称（単位）				実績値		目標値						
				5年度	6年度	7年度	8年度	10年度				
指標												
指標												
他市との比較検証												
C 事業コスト		単位：千円		5年度 （決算）	6年度 （決算）	7年度 （決算）	8年度 （予算）	7年度 事業費内訳				
	事業費 ①		16,270	8,632	12,639	14,456	合計	12,638,560 円				
	財源	特定財源	7,007	6,388	5,809	14,456	委託料	12,638,560 円				
		一般財源	9,263	2,244	6,830	0						
	職員人件費 ②		3,990	3,823	4,961	2,794						
	総事業費（①＋②）		20,260	12,455	17,600	17,250						
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0		7年度特定財源名称						
		7年度までの累積事業費		0		前年度繰越金 式典支援金						
		9年度以降の事業費見込		0								

会計名			市道3-928号線他道路新設改良事業				担当部		建設部	
一般会計							担当課		道路建設課	
款							担当係		事業推進係	
項										
目										
8			2		3					

PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	都市基盤						
		基本施策	道路・交通						
		施策の内容	道路の整備・保全						
		目的	愛知県が施工する県道小垣江安城線の周辺道路を整備することにより、県道により分断される地区の利便性及び安全性を確保する。			主たる内容	市道3-928号線（起点：小垣江町東高根～終点：小垣江町東山田）の道路整備 延長 270m 幅員 6.0～12.6m		
	位置づけ								
	関連計画								
	根拠法令	道路法							
	対象者	市民			事業期間	平成30年度～令和7年度			
	実施方法	■直営 ■委託 □指定管理 □補助・助成 □その他							
	BDO 事業実績 計画 V	5年度実績	6年度実績		7年度実績		8年度計画		
・明治用水移設負担金			・道路工事負担金 330m（県施工工事） ・用地取得 507㎡		（R6繰越分） ・道路工事負担金 330m（県施工工事）				
成果			道路整備を行うことにより、事業を完了することができた。						
課題									
指標名称（単位）				実績値		目標値			
				5年度	6年度	7年度	8年度	10年度	
活動指標		道水路用地の面積取得率（％）			98.8	98.8	100.0	—	—
指標									
他市との比較検証									
C 事業コスト		単位：千円		5年度（決算）	6年度（決算）	7年度（決算）	8年度（予算）	7年度事業費内訳	
	事業費 ①		49,975	34,371	24,197	0	合計 24,197,287 円		
	財源	特定財源	24,000	24,628	24,197	0	負担金、補助及び交付金 24,197,287 円		
		一般財源	25,975	9,743	0	0			
	職員人件費 ②		2,839	2,867	1,158	0			
	総事業費（①+②）		52,814	37,238	25,355	0			
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0	7年度特定財源名称				
		7年度までの累積事業費		0	前年度繰越金				
		9年度以降の事業費見込		0					

会計名			交差点改良事業				担当部		建設部	
一般会計							担当課		道路建設課	
款	項	目					担当係		道路整備第1係	
8	2	3								

PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	都市基盤				
		基本施策	道路・交通				
		施策の内容	道路の整備・保全				
	目的	東境町地内の交通事故が多発する交差点の道路拡幅を行うことにより、事故防止及び渋滞解消を図る。			主たる内容	○交差点改良（東境町） 延長 140m 幅員 6.5m	
	位置づけ	関連計画					
		根拠法令	道路法				
		対象者	市民		事業期間	令和5年度 ～ 令和7年度	
	実施方法	■直営 ■委託 □指定管理 □補助・助成 □その他					

BDO 事業実績 計画 V	5年度実績		6年度実績		7年度実績		8年度計画		
	・道路詳細設計		・用地取得 197㎡ ・交差点改良工事 1箇所（R5繰越分） ・道路詳細設計		（R6繰越分） ・交差点改良工事 1箇所				
	交差点の道路拡幅を行い、事故防止対策を行うことができた。								
	成果								
	課題								
	指標名称（単位）				実績値		目標値		
					5年度	6年度	7年度	8年度	10年度
	活動指標	交差点改良箇所数（箇所）			—	0	1	—	—
	指標								
	他市との比較検証								

C 事業コスト	単位：千円		5年度（決算）	6年度（決算）	7年度（決算）	8年度（予算）	7年度事業費内訳	
	事業費 ①		4,785	23,244	26,261	0	合計	26,261,400 円
	財源	特定財源	0	14,358	26,261	0	工事請負費	26,261,400 円
		一般財源	4,785	8,886	0	0		
	職員人件費 ②		1,381	7,964	868	0		
	総事業費（①＋②）		6,166	31,208	27,129	0		
	建設事業	全体事業費（単位：千円）		0	7年度特定財源名称			
		7年度までの累積事業費		0	前年度繰越金			
		9年度以降の事業費見込		0				

会計名			橋りょう補強事業				担当部	建設部	
一般会計							担当課	道路建設課	
款	項	目					担当係	道路整備第1係	
8	2	4							
PLAN 事業概要 計画 V	総合計画 施策体系	分野	福祉安心						
		基本施策	防災						
		施策の内容	災害に強いまちづくり						
	目的	避難路等に架かる橋りょうの耐震化を促進することで、地震発生後の道路機能を確保し、避難する市民の安全性を高める。				主たる内容	○橋りょう耐震補強工事 37橋		
	位置づけ	関連計画	地域防災計画、地震対策アクションプラン						
		根拠法令	道路法						
	対象者		市民		事業期間	平成24年度～			
実施方法		■直営 ■委託 □指定管理 □補助・助成 □その他							
BDO 事業実績 計画 V	5年度実績		6年度実績		7年度実績		8年度計画		
	・橋りょう耐震補強実施設計 4橋（R4繰越分） ・橋りょう耐震補強工事 1橋（弘法橋）		・橋りょう耐震補強工事 5橋（築溜橋・川原大橋・築地用水2号橋・堀川1号橋・半ノ木橋） （R5繰越分） ・橋りょう耐震補強工事 1橋（弘法橋）		（R6繰越分） ・橋りょう耐震補強工事 5橋（築溜橋・川原大橋・築地用水2号橋・堀川1号橋・半ノ木橋）		・橋りょう耐震補強詳細設計 2橋（境4号橋・巡見橋）		
	成果	計画的に耐震補強工事を行うことができた。							
	課題	橋りょう補強を進めるため、引き続き河川管理者との調整を行う必要がある。							
	指標名称（単位）				実績値		目標値		
					5年度	6年度	7年度	8年度	10年度
	活動指標	避難道路内の耐震化橋りょう数（橋）			24	24	29	29	34
	指標								
	他市との比較検証								
	C 事業コスト	単位：千円		5年度（決算）	6年度（決算）	7年度（決算）	8年度（予算）	7年度事業費内訳	
事業費 ①		140,085	79,337	52,757	9,500	合計	52,756,900 円		
財源		特定財源	95,908	66,337	52,757	0	工事請負費	52,756,900 円	
		一般財源	44,177	13,000	0	9,500			
職員人件費 ②		5,755	3,982	4,176	2,328				
総事業費（①＋②）		145,840	83,319	56,933	11,828				
建設事業		全体事業費（単位：千円）		0		7年度特定財源名称			
		7年度までの累積事業費		0		前年度繰越金			
		9年度以降の事業費見込		0					